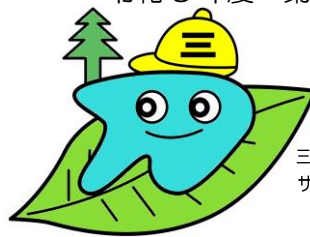


三溪だより

～心かがやき ともにのびる 三溪っ子～
めざせ あいさついっぱい えがおいっぱい 楽しい三溪小学校



三溪小学校キャラクター
サブローイックさん

発行：令和5年12月22日

「絆月間」を終えて

校長 宮武 紀子

早いもので、令和5年も残すところ、後わずかとなりました。既に、この学校通信を通してお知らせしておりますように、本年度は「心の交流事業」の研究指定を受け、「相手の立場になって考える力」「相手の気持ちを押し量る力」といった相互尊重の精神の育成に努めて参りました。

本校ならではの取り組みとして、「なかまキッズ」の子どもたちを中心とした「居心地のよいクラスづくり」があります。仲が深まるような遊びをみんなで考え合い、「全員遊びの日」を位置付けたり、学級で起こった問題をみんなで話し合い、改善策を見出す、といった取り組みを「なかまキッズ」の子どもたちが中心となって推進しています。これまでは学級ごとの取り組みが主であった絆月間（本市の全ての小・中学校が共通に取り組む人権月間）でしたが、本年度は人間関係構築の基本となる「言葉」に焦点を当て、「教室に溢れさせたい言葉」や「教室から無くしたい言葉」を意識した取り組みを、全校生が共通に取り組みました。各々が見出した言葉をカードに書いて、教室内に掲示されたボードに貼っていくという行為を重ねながら、いかに自分が日頃から、無自覚に言葉を発していたか、そしてそれにより、相手にどんな思いをさせていたか、ということを一一人が考え直すよい機会となりました。絆月間が終わってからも、子どもたち自身が見出した「教室に溢れさせたい言葉」は全てのクラスに掲示されています。無自覚であったことを自覚させ、そして実践化に至らせる、— その先導役は我々教師です。まずは我々教師がモデルとなる言動を心掛け、子どもたちに在るべき姿を示せる存在で在り続けたいと、私自身、自分を振り返ることの多い絆月間となりました。

全校生が一堂に会しての人権集会ができなくなって久しいですが、本年度も、絆月間の取り組みを学年ごとにVTRにまとめ、各学級の電子黒板で見合う形を取りました。この映像は、2月の学級懇談会の折に保護者の皆様にお見せする予定です。インフルエンザ流行の時期の録画となりましたので、残念ながら参加できていないお子様もいますが、その旨ご了承ください。

1月は「往く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」とは、よく言ったもので、年が明けると、あっという間に3学期終了、そして令和5年度の全ての学業が修了します。次年度も子どもたちの学力とともに、互いの立場や心を思い合う温かい内面性や、目標に向かってあきらめずに頑張りを抜くたくましい心を大切に育て参りたいと思います。そのためにも、我々教職員が自覚をもち、気を引き締めつつ、子どもたちの毎日が充実したものになるように、しっかりと努めて参りたいと思っています。

来るべき令和6年も、保護者の皆様、そして地域の皆様にとりまして、幸多き一年であります様、心よりお祈り申し上げます。どうか来年も学校と家庭、地域が手を携え、共に子どもたちを育ていけます様、ご協力の程よろしくお願い致します。（令和5年12月14日執筆）



3学期からは、このバッジをつけて「なかまキッズ」の子どもたちが活躍します！

～全校生にデザインを募集し、投票により決定した「なかまキッズ」バッジ～